

# 哲學論集

第43号 1996

---

## 論文

老いの倫理学のために ..... 池上哲司 (1)

木村素衛における表現的世界の構造 ..... 大西正倫 (13)

イデアの二つの似像

—— プラトン『国家』篇、線分の比喩について ..... 國嶋貴美子 (33)

真理と虚偽の文化 ..... アルノ・バルツィ (47)

訳 須藤 訓 任

## 研究ノート

ニーチェの道德批判についての若干の考察 ..... 西川友和 (67)

東学のハンウルニン(天)思想について ..... 陰富炯 (75)

講院を中心とした僧伽教育 ..... 金元榮 (85)

## 学会活動報告

---

大谷大学哲学会

# 大谷大学哲学会会則

## 第一条 (名称)

本会は大谷大学哲学会と称する。

## 第二条 (目的)

本会は、広義の哲学の研究と発表を行い、各学問領域の交流を盛んにして、学界に寄与することを目的とする。

## 第三条 (事業)

本会は、下記の事業を行う。

- 1 会誌『哲學論集』の発行
- 2 その他必要な事業

## 第四条 (会員)

本会の会員は、大谷大学哲学諸関連学科に所属する教員、大学院学生を中心にし、本会の趣旨に賛同する者とする。入退会は、第五条の2に定める委員会において、これを承認する。

但し、三年分の会費を滞納した者は会員資格を喪失するものとする。

## 第五条 (役員)

本会は、下記の役員を置く。

- 1 会長 本会を代表し、運営における責任を負う。任期は2年とし、再任を妨げない。

## 第六条 (総会)

- 2 学会委員 若干名をもって委員会を組織し、総会の決議に従い、本会の運営にあたる。任期は2年とし、再任を妨げない。

1 総会は、下記の事業を審議し、議決する。

(イ) 会長及び学会委員の選出

(ロ) 予算及び決算

(ハ) 事業方針

(ニ) その他必要な事項

- 2 総会は、会長が召集し、会員の3分の1以上の出席をもって成立する。

## 第七条 (経費)

本会の経費は、会費(年額50000円。但し学生会員は、博士課程学生30000円、修士課程学生20000円とする。)及びその他の収入による。

## 第八条 (会計報告)

各年度会計報告は、総会において行う。

## 第九条 (会則の変更)

本会則の変更は、総会において出席者の2分の1以上の同意を必要とする。

## 附則

- 1 本会則は、昭和54年4月1日より施行する。
- 2 昭和57年5月15日一部改正。
- 3 平成元年5月20日一部改正。
- 4 平成7年4月22日一部改正。

## 編集後記

『ソフィーの世界』が記録的なベストセラーになって以来、哲学・思想関係の入門書が雨後の筍のように、陸續と出版されるようになった。その内訳は、もっぱら俗受けを狙ったとしかいいようのないものから、きわめて高度な内容を盛り込んだものまで、さまざまようだが、こうした「流行」現象の背後にはむしろ、コマーシャリズムの仕掛けという一面も認められるにせよ、多くの人々の思想や哲学に対する欲求があるといつてよい。

最近「日本の没落」とか「日本の破滅」といった言葉を、多く目や耳にする。以前から社会全体に漂っていた漠とした閉塞感や不安感が、ここに至り、一種の明確な危機感にまで昂進され定型化されたともいうか。それは、誇りとしうるものを日本が、一つ一つ喪失してきた過程でもある——（今に始まったことではないが）政治の無力・腐敗、バブル崩壊以降の経済の不振・停滞、そしてここ一、二年はとくに高級官僚をはじめとする行政機

関の驕りと墮落：。

そうした状況は大学に身を置くわれわれにも決して無関係ではない。大学のレジャーランド化がいわれだしたのは一体いつの頃からであったか！ 人によつては、このグローバルな危機状況の原因を道徳規範の欠落に認め、その再興を主張するかもしれない。そして、ここに哲学の「流行」を関連づけることもできるだろう。とはいえ、伝統的道徳規範が崩れ去ったのは、それなりの歴史的必然であった。重要なことはむしろ、規範の不在とは、もはや規範に対応しえぬまでに人間存在が揺らいでいることを示唆することである。その意味で、なにより避けられなければならないのは、思想のマニユアル化であろう。思うに、人間存在の根幹に関わる思想や規範こそ、対処療法的発想で取り扱われてはならないものだからである。地道で息の長い「哲学」研究の必要性は、それだけ一層増しているといわなければならない。本号に掲載された労作がその証左とならんことを！

編集委員

大竹・堀尾・須藤  
寺林・國嶋・西川

哲 学 論 集

第43号

1997年3月10日印刷  
1997年3月17日発行

編 集 行  
発 行

大谷大学哲学会

代 表 者 野 村 哲 也

〒603 京都市北区小山上総町  
大谷大学内 (TEL 432-3131)

印 刷

(株) 石 田 大 成 社  
京都市中京区丸太町通小川西入  
TEL 211-9111 〒604

# TETSUGAKU RONSHU

## THE PHILOSOPHICAL STUDIES

---

No. 43

1996

---

### Articles

Zur Ethik des Alterns ..... IKEGAMI Tetsuji (1)

The Structure of KIMURA Motomori's Expressive World  
..... OHNISHI Masamichi (13)

Two Images of Idea  
—The Object of Mathematics in Plato's Analogy of the Line—  
..... KUNISHIMA Kimiko (33)

Die Kultur der Wahrheit und Lüge ..... Arno BARUZZI (47)  
übersetzt v. SUTO Norihide

### Note

Über *Nietzsches* Moral-Kritik ..... NISHIKAWA Tomokazu (67)

A Study on the Hanwulim in Donghak ..... EUM Boo Hyung (75)

Priest Education based on koin, a Leature Room ..... KIM Won Young (85)

### Announcements

---

THE OTANI PHILOSOPHICAL SOCIETY  
OTANI UNIVERSITY